

令和 3 年度

第 2 次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

春日井市民病院

目 次

第1節	事業概要	1
第2節	数値目標	2
第3節	収支計画	6
第4節	具体的取組の状況	10
第5節	令和3年度各所属の主な取組項目の実施状況	21
第6節	中期経営計画体系別実施結果一覧	25

第1節 事業概要

春日井市民病院は、健全な経営と医療の質の確保について様々な取り組みを実施していくため、平成21年3月に中期経営計画（公立病院改革プラン）を、平成27年3月に第2次中期経営計画を策定し、平成29年3月に改定しました。令和3年3月に第2次中期経営計画を令和4年度まで2年間延長しました。

令和3年度は、地域の基幹病院、また、第二種感染症指定医療機関として、次の取り組みを進め、新型コロナウイルス感染症に適切に対応するとともに医療の質の向上を図りました。

事業面においては、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、通常の診療を維持しつつ、発熱外来で発熱患者に対応するとともに、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床を確保するなど、引き続き医療提供体制の維持に努めました。

また、医療従事者、高齢者等への新型コロナワクチン接種に自治体病院として積極的に取り組みました。

施設設備面においては、医療の高度化や多様化する医療需要に対応するとともに、より安全な医療を提供するため、尾張地区初の小児アレルギーセンター、手術台と血管撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室や、内視鏡センターを備えた新棟の増築について、前年度に引き続き工事を進めました。

また、新棟に設置する、血管撮影装置や手術室映像システムなどの医療機器を購入するとともにコンピュータ断層撮影装置などの医療機器を更新したほか、入院患者等がより快適に過ごせるよう、病室の椅子の入替えを行いました。

経営面においては、医業収益は患者数の増加や診療単価の向上により令和元年度の水準には及ばないものの前年度から増加しました。また、医業外収益は、感染症対応のために確保した延病床数が前年度から増加し、空床や休床による損失を補償する補助金が増加したことから、前年度赤字だった経常収支は黒字に転じ、純利益は1,475,059千円を計上しました。

業務実績においては、一般病床の入院延患者数は153,187人で一般病床利用率は76.0%（対数値目標比-9ポイント）、入院患者一人1日当たりの診療収入は68,896円（対数値目標比+4,196円）となりました。また、外来延患者数313,975人で外来患者一人1日当たりの診療収入は16,759円（対数値目標比+1,759円）となりました。

収益的収支においては、医業収益は16,883,647千円（対収支計画比-270,777千円）で、対前年度比1,252,416千円増加しました。一方、医業費用は17,373,975千円（対収支計画比+490,199千円）で、対前年度比995,900千円増加し、医業収支比率は97.2%となり対前年度比で1.8ポイント増加しました。なお、給与費は9,332,823千円（対収支計画比+300,911千円）で、職員給与費対医業収益比率は55.3%（対数値目標比+2.6ポイント）、材料費は4,057,900千円（対収支計画比+338,900千円）で、材料費対医業収益比率は24.0%（対数値目標比+2.3ポイント）となりました。

また、経常収益は19,999,214千円（対収支計画比+2,059,592千円）、経常費用は18,524,615千円（対収支計画比+478,416千円）で、経常収支比率は108.0%（対数値目標比+8.6ポイント）となりました。

第2節 数値目標

(1) 計画

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支比率 (経常収益/経常費用×100) (%)	101.1	103.0	101.4
医業収支比率 (医業収益/医業費用×100) (%)	—	103.7	102.0
職員給与費対医業収益比率 (給与費/医業収益×100) (%)	52.4	51.6	52.2
材料費対医業収益比率 (材料費/医業収益×100) (%)	19.4	20.4	20.8
委託費対医業収益比率 (委託料/医業収益×100) (%)	11.9	11.1	11.1
一般病床利用率 (%)	84.0	84.0	85.0
延入院患者数 (一般) (人)	170,937	170,470	171,260
1日当たり外来患者数 (人)	1,300	1,355	1,360
入院患者一人1日 当たり診療収入 (円)	54,865	58,200	58,600
外来患者一人1日 当たり診療収入 (円)	12,800	13,140	13,300
機能評価係数Ⅱ	—	0.0742	0.0750
クリニカルパス適用率 (%)	—	44.0	44.5
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金) (百万円)	7,386	7,404	7,342
資金の不足額 (千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額/医業収益×100) (%)	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.5	11.0	10.8
紹介率 (%)	65.5	66.0	66.5
逆紹介率 (%)	70.0	70.0	70.0

※平成28年度から令和2年度までの数値は、平成29年3月に策定した第2次中期経営計画[改定版]の数値

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
100.9	101.2	101.0	99.4	100.6
100.6	101.5	101.9	101.6	101.4
52.1	51.8	51.0	52.7	52.0
20.5	20.5	20.5	21.7	21.2
11.2	11.0	10.8	10.2	10.2
86.0	87.0	88.0	85.0	87.0
173,270	175,770	177,300	171,250	175,290
1,370	1,380	1,400	1,370	1,390
58,800	59,000	59,200	64,700	64,900
13,450	13,600	13,750	15,000	15,200
0.0760	0.0770	0.0780	0.1300	0.1310
45.0	45.5	46.0	47.3	48.0
7,588	7,983	8,388	7,303	7,447
0	0	0	0	0
—	—	—	—	—
10.6	10.4	10.2	10.9	10.8
67.0	67.5	68.0	82.0	82.7
70.0	70.0	70.0	102.0	102.0

(2) 実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支比率 (経常収益/経常費用×100) (%)	103.3	104.4	105.8
医業収支比率 (医業収益/医業費用×100) (%)	102.6	102.2	105.7
職員給与費対医業収益比率 (給与費/医業収益×100) (%)	52.3	53.1	50.4
材料費対医業収益比率 (材料費/医業収益×100) (%)	20.3	21.3	21.1
委託費対医業収益比率 (委託料/医業収益×100) (%)	11.0	10.7	10.5
一般病床利用率 (%)	83.9	84.8	85.4
延入院患者数 (一般) (人)	170,680	172,119	171,967
1日当たり外来患者数 (人)	1,335	1,363	1,396
入院患者一人1日 当たり診療収入 (円)	57,016	58,165	59,778
外来患者一人1日 当たり診療収入 (円)	13,052	13,313	13,398
機能評価係数Ⅱ	0.0579	0.0742	0.0753
クリニカルパス適用率 (%)	42.9	43.4	42.2
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金) (百万円)	7,420	7,756	8,060
資金の不足額 (千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額/医業収益×100) (%)	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.2	11.2	10.9
紹介率 (%)	66.2	77.0	81.3
逆紹介率 (%)	82.0	86.2	97.0

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
105.5	104.9	98.6	108.0
105.3	105.1	95.4	97.2
49.9	50.8	56.7	55.3
21.2	21.7	23.6	24.0
10.4	10.1	11.1	10.6
87.0	88.7	74.1	76.0
175,334	179,243	149,214	153,187
1,415	1,432	1,210	1,297
61,244	62,010	65,939	68,896
13,911	14,624	16,099	16,759
0.1295	0.1340	0.1340	0.1288
43.7	45.9	46.3	46.7
8,398	9,264	8,237	10,564
0	0	0	0
—	—	—	—
10.9	11.0	11.1	10.8
81.4	82.7	80.9	78.7
101.5	102.1	105.4	103.8

第3節 収支計画

(1) 計画

ア 収益的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 医 業 収 益 ^a	13,748,978	14,648,259	15,394,142
	(1) 診 療 収 益	13,421,978	14,251,960	14,449,191
	入 院 収 益	9,378,458	9,923,854	10,035,719
	外 来 収 益	4,043,520	4,328,106	4,413,472
	(2) そ の 他 医 業 収 益	327,000	396,299	944,951
	2. 医 業 外 収 益 ^b	1,099,991	1,105,059	724,279
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	787,498	784,044	404,541
	(2) 国 (県) 補 助 金	21,000	22,691	22,658
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	108,588	107,998	107,339
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	182,905	190,326	189,741
経 常 収 益 ^(a+b) (A)	14,848,969	15,753,318	16,118,421	
支 出	1. 医 業 費 用 ^c	13,798,933	14,486,499	15,093,467
	(1) 給 与 費	7,208,186	7,748,902	8,039,206
	給 料	2,957,000	2,968,870	3,028,248
	退 職 給 付 費	388,100	254,743	363,697
	そ の 他	3,863,086	4,525,289	4,647,261
	(2) 材 料 費	2,661,000	3,066,370	3,196,364
	う ち 薬 品 費	1,408,000	1,599,711	1,663,200
	(3) 経 費	2,651,330	2,473,703	2,719,135
	う ち 委 託 料	1,630,000	1,667,513	1,714,275
	(4) 減 価 償 却 費	1,200,366	1,103,937	1,055,411
	(5) そ の 他	78,051	93,587	83,351
	2. 医 業 外 費 用 ^d	890,827	814,901	799,421
	(1) 支 払 利 息	198,033	184,216	170,128
	(2) そ の 他	692,794	630,685	629,293
	経 常 費 用 ^(c+d) (B)	14,689,760	15,301,400	15,892,888
経 常 損 益 ^{(A)-(B)} (C)	159,209	451,918	225,533	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 ^(D)	0	0	0
	2. 特 別 損 失 ^(E)	0	0	0
	特 別 損 益 ^{(D)-(E)} (F)	0	0	0
純 損 益 ^{(C)+(F)}	159,209	451,918	225,533	
累 積 欠 損 金	7,235,479	6,134,025	5,908,492	

イ 資本的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 企 業 債	0	0	0
	2. 一 般 会 計 出 資 金	187,290	190,744	194,266
	3. 国 (県) 補 助 金	0	2,676	0
	4. そ の 他	0	206,200	200,000
	収 入 計 (A)	187,290	399,620	394,266
支 出	1. 建 設 改 良 費	915,653	1,152,951	933,872
	2. 企 業 債 償 還 金	749,158	762,975	777,063
	3. 投 資	45,000	56,700	64,200
	支 出 計 (B)	1,709,811	1,972,626	1,775,135
差 引 不 足 額 ^{(A)-(B)}	△ 1,522,521	△ 1,573,006	△ 1,380,869	

※平成28年度から令和2年度までの収支は、平成29年3月に策定した第2次中期経営計画[改定版]の収支

(単位:千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
15,621,210	15,878,177	16,149,934	17,154,424	17,621,951
14,665,916	14,912,286	15,173,910	16,052,975	16,510,425
10,188,276	10,370,430	10,496,160	11,079,875	11,376,321
4,477,640	4,541,856	4,677,750	4,973,100	5,134,104
955,294	965,891	976,024	1,101,449	1,111,526
759,130	744,669	731,430	785,198	788,344
429,187	414,849	402,541	454,355	451,106
22,000	22,000	22,000	25,350	26,000
106,363	106,260	105,849	126,440	126,338
201,580	201,560	201,040	179,053	184,900
16,380,340	16,622,846	16,881,364	17,939,622	18,410,295
15,521,431	15,647,393	15,855,555	16,883,776	17,384,805
8,140,723	8,228,774	8,234,236	9,031,912	9,167,024
3,104,640	3,110,280	3,110,280	3,482,599	3,527,037
375,280	428,040	411,060	355,995	364,122
4,660,803	4,690,454	4,712,896	5,193,318	5,275,865
3,195,000	3,255,000	3,315,000	3,719,000	3,739,000
1,670,000	1,700,000	1,730,000	1,920,000	1,940,000
2,881,277	2,891,798	3,095,319	2,902,743	3,052,018
1,750,000	1,750,000	1,750,000	1,754,947	1,794,313
1,215,726	1,183,097	1,122,250	1,122,983	1,332,188
88,705	88,724	88,750	107,138	94,575
719,526	777,559	853,052	1,162,423	916,200
155,764	141,117	126,181	111,266	99,172
563,762	636,442	726,871	1,051,157	817,028
16,240,957	16,424,952	16,708,607	18,046,199	18,301,005
139,383	197,894	172,757	△ 106,577	109,290
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
139,383	197,894	172,757	△ 106,577	109,290
5,769,109	5,571,215	5,398,458	3,857,195	3,747,905

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0	0	0	1,759,200	329,000
197,857	201,519	205,252	211,688	276,002
0	0	0	0	0
200,000	200,000	200,000	0	0
397,857	401,519	405,252	1,970,888	605,002
576,605	525,281	502,890	3,813,247	1,198,502
791,427	806,074	821,010	846,749	977,890
57,022	60,615	61,800	43,200	45,300
1,425,054	1,391,970	1,385,700	4,703,196	2,221,692
△ 1,027,197	△ 990,451	△ 980,448	△ 2,732,308	△ 1,616,690

(2) 実績

ア 収益的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 医 業 収 益 a	14,354,269	14,833,508	15,795,383
	(1) 診 療 収 益	13,964,712	14,421,832	14,843,037
	入 院 収 益	9,731,420	10,011,236	10,279,870
	外 来 収 益	4,233,292	4,410,596	4,563,167
	(2) そ の 他 医 業 収 益	389,557	411,676	952,346
	2. 医 業 外 収 益 b	1,131,611	1,129,379	793,280
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	787,498	784,044	455,153
	(2) 国 (県) 補 助 金	25,951	22,955	22,673
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	108,660	108,761	106,893
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	209,502	213,619	208,561
経 常 収 益 (a+b) (A)	15,485,880	15,962,887	16,588,663	
支 出	1. 医 業 費 用 c	13,989,783	14,519,100	14,941,745
	(1) 給 与 費	7,501,383	7,874,525	7,962,002
	給 料	2,941,306	2,957,145	2,993,651
	退 職 給 付 費	347,655	386,274	253,703
	そ の 他	4,212,422	4,531,106	4,714,648
	(2) 材 料 費	2,910,333	3,153,739	3,333,769
	う ち 薬 品 費	1,566,688	1,636,063	1,699,233
	(3) 経 費	2,311,116	2,347,440	2,548,054
	う ち 委 託 料	1,582,819	1,585,668	1,652,175
	(4) 減 価 償 却 費	1,194,352	1,067,391	1,029,757
	(5) そ の 他	72,599	76,005	68,163
	2. 医 業 外 費 用 d	996,215	766,991	735,889
	(1) 支 払 利 息	198,033	184,216	170,128
	(2) そ の 他	798,182	582,775	565,761
	経 常 費 用 (c+d) (B)	14,985,998	15,286,091	15,677,634
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	499,882	676,796	911,029	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	10	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 10	0	0
純 損 益 (C)+(F)	499,872	676,796	911,029	
累 積 欠 損 金	6,585,943	5,909,147	4,998,118	

イ 資本的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 企 業 債	0	0	0
	2. 一 般 会 計 出 資 金	187,290	190,744	194,266
	3. 国 (県) 補 助 金	8,707	2,676	0
	4. そ の 他	9,800	207,400	206,066
	収 入 計 (A)	205,797	400,820	400,332
支 出	1. 建 設 改 良 費	821,239	1,088,962	778,391
	2. 企 業 債 償 還 金	749,158	762,975	777,062
	3. 投 資	55,200	54,900	48,600
	支 出 計 (B)	1,625,597	1,906,837	1,604,053
差 引 不 足 額 (A)-(B)	△ 1,419,800	△ 1,506,017	△ 1,203,721	

(単位:千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
16,512,540	17,250,213	15,631,231	16,883,647
15,539,783	16,189,692	14,649,629	15,824,407
10,738,136	11,123,009	9,914,947	10,562,626
4,801,647	5,066,683	4,734,682	5,261,781
972,757	1,060,521	981,602	1,059,240
805,795	788,645	1,369,290	3,115,567
471,988	464,096	483,187	492,433
22,837	25,487	587,740	2,264,590
106,340	106,237	106,310	125,563
204,630	192,825	192,053	232,981
17,318,335	18,038,858	17,000,521	19,999,214
15,683,737	16,412,048	16,378,075	17,373,975
8,234,951	8,762,507	8,866,157	9,332,823
3,090,258	3,239,093	3,449,338	3,583,268
157,210	316,494	264,853	331,658
4,987,483	5,206,920	5,151,966	5,417,897
3,503,795	3,739,736	3,685,484	4,057,900
1,812,423	1,963,040	1,928,900	2,213,975
2,714,563	2,711,156	2,717,350	2,839,352
1,724,419	1,735,806	1,738,255	1,797,957
1,145,086	1,110,095	1,050,232	1,068,996
85,342	88,554	58,852	74,904
724,145	787,209	866,623	1,150,640
155,764	141,117	126,181	111,116
568,381	646,092	740,442	1,039,524
16,407,882	17,199,257	17,244,698	18,524,615
910,453	839,601	△ 244,177	1,474,599
0	0	0	482
2,039	1	2,106	22
△ 2,039	△ 1	△ 2,106	460
908,414	839,600	△ 246,283	1,475,059
4,089,704	3,250,104	3,496,387	2,021,328

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
0	0	82,300	1,694,300
197,857	201,519	205,253	209,061
0	1,042	116,971	49,823
210,500	210,633	209,597	11,533
408,357	413,194	614,121	1,964,717
492,189	463,158	942,626	3,597,125
791,427	806,074	821,010	836,240
43,200	42,900	38,400	36,000
1,326,816	1,312,132	1,802,036	4,469,365
△ 918,459	△ 898,938	△ 1,187,915	△ 2,504,648

第4節 具体的取組の状況

取組方針1 地域で果たす医療機能の充実

基本的取組1-1 救急医療の充実

1 高度で専門的な医療提供体制の確保

(1) 脳卒中

医師の配置（脳神経内科医・脳神経外科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機1人及び当直1人

(2) 心疾患

医師の配置（循環器内科医：8人）

- ・平日昼間：8人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機1人

2 小児・周産期救急医療提供体制の確保

(1) 小児医療体制の充実

医師の配置（小児科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、日曜日：待機1人
- ・土曜日、祝日：当直1人

(2) 産科医24時間常駐体制の堅持

医師の配置（産婦人科医：7人）

- ・平日昼間：7人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機又は当直1人

3 休日・平日夜間急病診療所との連携

救急患者や重症患者に対し迅速に対応するため、日常的に連絡体制を確保するとともに、大型連休（GW、お盆、年末年始）の医師等診療体制の確認を行っている。

4 消防機関との連携

当院研修医と春日井市消防本部所属の救急職員による救急勉強会（4回）実施するとともに、当院の救命救急センター医師等が講師となり春日井市及び近隣消防機関の職員に対して講義（3回）を行った。また、救命救急センターで病院実習を行うなど、研修や実習を通じて救急救命士の知識向上を図り病院前救護活動の技術向上に寄与した。

【救急救命士実習受入状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実習受入人数	59人	61人	65人	63人	64人
実習年間延日数	220日	172日	200日	107日	169日

※対象：春日井市消防本部及び小牧市消防本部

基本的取組 1－2 高度専門医療の提供

【重点取組】 緩和ケア病床の設置

平成29年2月に設置した緩和ケア病床の令和3年度の利用実績は、実患者数44人、病床利用率21.8%であった。

【重点取組】 心臓病センターの設置

新棟の増築に伴う部署の移転と既存棟の改修によって生じたりハビリテーション室周辺のスペースを設置場所の候補とし、引き続き検討した。

【重点取組】 新棟の増築等

中間年である令和3年度も引き続き工事を進め、ハイブリッド手術室やアレルギーセンター等を設置する建物の大部分の工事を完了した。

【重点取組】 がん治療の充実

ゲノム医療については、がん遺伝子パネル検査の希望者を連携する他院へ紹介している。令和3年度の紹介件数は18件であった。

1 脳卒中センターの強化

医師の24時間待機体制を維持し、脳卒中ケアユニット（SCU）6床を運用した。令和3年度の利用率は、94.8%であった。

2 高度医療機器の計画的な更新・導入

新棟に設置する、血管撮影装置や手術室映像システムなどの医療機器を導入し、安全・安心で高度な専門医療の提供に努めた。

【高度医療機器使用状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
C T 検査件数	46,797件	50,441件	52,038件	49,188件	50,775件
M R I 検査件数	17,161件	17,677件	17,155件	15,667件	16,756件

基本的取組 1－3 地域完結型医療の推進

1 地域医療連携の推進

当院の医師と事務職員が地域の医療機関を訪問し、各診療科の強みや紹介してほしい疾患等をPRするとともに、要望や意見を聴取し対応するなど顔の見える関係のもと、信頼関係の向上に努めた。また、回復期病院を始めとした近隣医療機関や訪問看護ステーションなど医療・介護機関との連携推進のため、医療連携協議会、医療連携業務検討会、訪問看護懇話会、その他研修会等において情報共有及び意見交換を行った。

【地域医療連携の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
紹介受入患者数	31,716人	32,862人	33,039人	28,512人	31,541人
高度医療機器共同利用件数	4,352件	4,431件	3,989件	3,088件	3,347件

【病診連携推進関連研修等の実施状況】

研 修 名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医療連携協議会	4回	4回	4回	4回
医療連携業務検討会	4回	4回	4回	4回
訪問看護懇話会	2回	2回	0回	15回
がんキャンサーオープンカンファレンス	12回	10回	5回	3回
緩和ケア研修会	1回	1回	0回	2回
がん地域連携パスネットワーク会議	1回	1回	1回	1回

2 退院支援の充実

さくらカウンターでは、平成30年4月から入院時支援看護師を配置している。入院前に治療経過や入院生活を説明することで入院治療の不安を軽減するとともに、退院困難な要因を抽出し、退院支援を必要とする患者の早期把握に努めている。

退院に向けて支援を要する患者には、各病棟に配置した専任の看護師または社会福祉士が退院支援職員として、在宅療養に関わる地域の医療・福祉・介護従事者や転院先の医療機関・施設との調整を行い、退院後に必要な医療やサービスが受けられるように支援をしている。

主治医や病棟看護師だけでなく、多職種が協力して入院前から退院まで切れ目のない支援を行っている。

3 地域連携パスの推進

胃がん、大腸がんを始めとしたがんに関する地域連携パスに関する取組を引き続き実施し、令和3年度は新たに174件運用を開始した。

さらに、心不全患者が退院後のセルフケアに取り組めるよう、日常生活の注

意点や血圧等のチェックシートを掲載した「心不全ノート」を活用（平成30年10月作成）し、患者の治療経過や生活記録を、地域の医療機関や訪問看護師、福祉・介護サービス従事者と情報共有することで、役割分担のもと、地域全体で心不全患者を診る取組みを行っている。令和3年度は新たに211件の運用を開始した。

また、他の医療機関へ紹介した患者について、当院の定期受診予定日が近づいたことを紹介先に対して知らせる「かすがいLiner」の運用を新たに開始した。令和3年度末時点で508人の患者を通知対象として登録している。

これらの取組みにより、地域の医療機関との役割分担のもと、患者に必要な医療を途切れることなく提供する循環型医療を推進している。

4 地域包括ケアシステムの構築支援

在宅療養への対応を強化するため、地域の医療・介護従事者の資質向上に寄与することを目的として、当院が備えている人的資源を活用した研修会を開催した。

感染症対策としてオンラインにて開催し、また、参加しやすいように1つのテーマで小グループごとに複数回実施する方法とした。

【研修会一覧】

研修名	対象	回数	参加人数
在宅でケアを受けている方を熱中症から守る	ケアマネジャー、訪問看護師等	5回	25事業所 109名
心不全を地域で診る	薬剤師等	11回	11薬局 66名
高齢者の在宅での糖尿病管理の基礎知識	ケアマネジャー、訪問看護師等	5回	17事業所 68名
訪問診療の実際 訪問診療医より在宅の魅力伝えます	在宅ケア関係者(医師、看護師、ケアマネジャー等)	1回	80名
慢性呼吸器疾患患者の在宅での注意点	ケアマネジャー、訪問看護師等	1回	34名
在宅でも注意が必要、介護骨折	ケアマネジャー、訪問看護師等	2回	15事業所 46名
心不全を病院と地域が連携して診る	ケアマネジャー、訪問看護師等	1回	25事業所 59名
嚥下と誤嚥勉強会	看護師、作業療法士、理学療法士	1回	13名
ストーマ勉強会	看護師	1回	9名
合計		28回	484名

5 健康づくり事業等との協働の推進

糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知することを目的とした「世界糖尿病デーin春日井2021」は2年ぶりの開催となった。

Web開催となった2021健康救急フェスティバルに、「日々のちょっとした心がけと脳にやさしい生活習慣で脳の老化・認知症予防！！」ポスターを提供した。

6 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化

地域において切れ目のない医療を提供することを目的として、Tri-netかすがいを運用している。

Tri-netかすがいは、当院の診療・検査予約が24時間365日オンラインで取得可能であるとともに、紹介患者が当院で受けた診療及び検査の記録を、紹介元及び紹介先の医師等がオンラインで確認することができる。

Tri-netを活用することで、透明性のある情報提供により信頼の向上に努めるとともに、地域において、患者に必要な医療を適切な医療機関が提供できることを目指している。平成29年10月から運用を開始し、令和3年度末時点で90の医療機関が導入している。

取組方針2 市民の立場に立った医療サービスの提供

基本的取組2-1 安全・安心な医療の提供

【重点取組】 医療の質の向上

日本病院会が推奨する医療の質を評価する指標（QI）を活用し、QI参加病院間の数値の比較をするとともに、当院の各データを基に診療内容や医療安全などにつなげるための検証を実施し、改善が必要なものについては担当部署へ改善を促したりするなど、医療の質の向上に努めた。

【重点取組】 感染症対策の徹底と検査体制の充実

感染予防対策として、病院職員への流行性ウイルス疾患抗体価検査を継続的に実施した。これにより、ウイルス疾患発症患者の看護にあたる際、抗体を有する職員を優先的に配置することで職員への感染を防いだほか、職員への新型コロナワクチン接種を実施した。また、実習で受け入れる学生の新型コロナワクチン接種も行った。

院内の検査体制として、委託職員も含めて濃厚接触者となった者には抗原定量検査を実施し感染拡大を防ぐなど徹底して対応した。

【重点取組】 感染症流行下における継続した医療の提供

新型コロナウイルス感染症対応では、一般病棟の病室に陰圧装置を設置し、陰圧室として使用できるようにし、感染のフェーズに合わせて柔軟に看護師を

配置転換することで、より多くの新型コロナ患者を受け入れられるよう体制を整えた。

2 医療安全意識の向上

全職員を対象に安全管理のための職場研修を年2回、感染対策のため、オンラインで開催した。職員の安全意識向上に努めるとともに、毎月第3週を安全強化週間と定め、全職員へ安全意識の啓発を行った。また、病棟等で発生した医療事故につながりかねない出来事（インシデント）を報告書としてまとめ、これらの事例を分析し、類似するインシデントの発生や医療事故・医療過誤の発生を未然に防ぐとともに、職員用デジタルサイネージや医局会などを通じ周知した。

3 医療相談の充実

患者・家族からの多様な相談に対する窓口を「さくらカウンター」とし、相談内容に適した担当者に振り分けている。看護相談外来では、摂食嚥下、糖尿病、皮膚排泄ケア、認知症の各分野の認定看護師が対応している。当院ホームページや1階玄関ホールに設置した案内ボードで周知し、多くの患者に利用されている。

4 チーム医療の推進

NST（栄養サポート）、緩和ケア、感染対策、EOL（人生の最終段階）ケア、糖尿病チームなど、多種職が早期から患者の入院支援が行えるようチーム医療を数多く展開し患者の診療やケアを行った。

5 接遇の向上

患者や来院者へのサービス向上を図るため、内部講師による接遇研修を実施した。

6 薬薬連携の推進

地域の薬局との研修会を適宜開催し、医薬品のリスク管理、抗がん剤のレジメン紹介などを行った。抗がん剤などのハイリスク薬は、服薬情報提供書を通じて薬局と連携することにより、副作用の早期発見・重症化予防につながった。

また、手術実施の際に服用を中止する薬剤について、患者指導を薬局に依頼するなど連携強化に努めた。

7 病院機能評価の受審

令和3年10月に受審し、5回目の認定を受けた。S評価を3項目で受けるなど前回受審時から評価が改善した。

8 IS015189の認証取得

令和4年度の受審準備のため、業者とコンサルタント契約を締結し、助言を受けながら臨床検査技術室の体制整備に努めた。

取組方針3 健全な経営の確保

基本的取組3-1 医療スタッフの確保・育成

【重点取組】 研修体制の充実

研修医にとって当院での初期研修が更に充実したものとなるよう、研修環境や指導医による支援体制の拡充を図るため、研修医の院外講習会への参加を支援するとともに、研修指導医の育成や各所属が実施する院内研修の一元管理に努めた。

1 医療スタッフの確保

医師・看護師等の医療スタッフの確保に努めた結果、後期研修のための専攻医や専攻医から常勤医師として採用するなど職員数は、令和4年4月1日には957人となっている。

【職員の状況】

(4月1日現在)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医師	141人	145人	146人	145人	145人
薬剤師	37人	38人	37人	39人	40人
医療技師	106人	120人	126人	135人	136人
看護職員	550人	565人	571人	590人	593人
行政職員	50人	45人	39人	41人	41人
労務職員	2人	3人	3人	2人	2人
計	886人	916人	922人	952人	957人

※令和2年度以降は、会計年度任用職員制度の開始に伴い、研修医及び専攻医を除き、会計年度任用職員（旧嘱託職員）は除外して集計している。

【研修医の状況】

(4月1日現在)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
研修医	21人	23人	24人	24人	23人
専攻医	7人	13人	21人	20人	28人

2 医療スタッフの質の向上

【認定看護師育成状況】（退職者を除く）

資 格	平成30年度以前	令和元年度	合 計
感 染 管 理	3人		3人
集 中 ケ ア	1人		1人
皮 膚 ・ 排 泄 ケ ア	3人		3人
が ん 性 疼 痛 看 護	3人		3人
摂食・嚥下障害看護	2人		2人
が ん 化 学 療 法 看 護	1人	1人	2人
認 知 症 看 護	1人	1人	2人
救 急 看 護	2人		2人
手 術 看 護	1人		1人
訪 問 看 護	1人		1人
乳 が ん 看 護	1人		1人
慢性呼吸器疾患看護		1人	1人
が ん 放 射 線 療 法 看 護		1人	1人
合 計	19人	4人	23人

【専門看護師育成状況】

	平成30年度以前	合 計
が ん 看 護	2人	2人
感 染 症 看 護	1人	1人
合 計	3人	3人

【特定行為に係る看護師育成状況】

	令和元年度	令和2年度	合 計
薬剤投与（栄養・水分管理） 薬剤投与（精神・神経症状）	1人		1人
創 傷 管 理		1人	1人
合 計	1人	1人	2人

【研究研修費の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
研 究 研 修 費	54,744千円	69,416千円	57,321千円	37,918千円	45,437千円
うち旅費	14,736千円	20,035千円	17,243千円	975千円	2,733千円
うち研究雑費	16,748千円	23,971千円	14,932千円	9,865千円	16,589千円

3 勤務環境の改善

働きやすい職場づくりと生産性向上の実現、過重労働の解消を図ることを目的に、「時間外労働・休日労働に関する協定書」を令和4年3月31日に職員代表と締結した。

また、令和3年7月から夕方・夜間の時間帯に、看護師の病棟業務の負担軽減を図るため、看護補助者の派遣を受けた。

基本的取組 3-2 効率的な病院経営の推進

1 経営意識の向上

厚生労働省が定めた1日あたりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、内視鏡検査等）を組み合わせて計算するDPCを採用しており、このDPCデータを用いて他院との比較を行い、結果を職員へ周知するとともに、毎月の経営状況や院長の訓示などを掲載した職員新聞を作成し経営意識の向上に努めた。

2 職員からの業務改善提案

中期経営計画や医療を取り巻く状況等を踏まえ、当院における業務上の改善点や要望を各所属長から聞き取るため、幹部会構成員によるヒアリングを実施した。

3 未収金対策

内容証明郵便による督促状の送付など引き続き実施した。過年度未収金は56,960千円に減少した。

【未収金対策の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
過年度未収金額(年度末時点)	67,333千円	65,517千円	60,805千円	58,534千円	56,960千円

【不納欠損処分の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
不納欠損処分額	11,422千円	11,103千円	10,624千円	10,016千円	8,985千円

4 経費の削減

(1) 材料費及び器械備品購入費の削減

薬品や診療材料をより安価に購入することができるよう、薬品は年2回、診療材料は不定期に価格の値引き交渉を実施するとともに、一部の品目について、一定の数量を使用すると価格を引き下げる契約を結び、材料費を削減した。また、診療材料購入委員会及び医療機器物品購入審査委員会を適時開催し、診療材料の適正な在庫管理、器械備品の購入を行った。

- ・ 診療材料購入委員会
委員構成：医師 5 人、技師 2 人、看護師 5 人の合計12人
開催回数：9 回
- ・ 医療機器物品購入審査委員会
委員構成：医師 7 人、技師 1 人、看護師 1 人
事務局職員 2 人の合計11人
開催回数：5 回

【材料費等の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
診療材料費	1,630,961 千円	1,688,073 千円	1,770,488 千円	1,750,177 千円	1,838,561 千円
対医業収益比率	10.3%	10.2%	10.3%	11.2%	10.9%
薬品費	1,699,233 千円	1,812,423 千円	1,963,040 千円	1,928,899 千円	2,213,975 千円
対医業収益比率	10.8%	11.0%	11.4%	12.3%	13.1%
消耗品費	76,952 千円	69,095 千円	75,945 千円	75,604 千円	76,322 千円
対医業収益比率	0.5%	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%

(2) 後発医薬品の採用

先発医薬品と同じ効能効果が得られる後発医薬品を優先的に採用し、経費の削減に努めた。

【後発医薬品の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
後発医薬品	340 品目	351 品目	361 品目	386 品目	423 品目
後発医薬品数量シェア	86.1%	89.8%	92.2%	94.8%	93.3%

5 委託契約の見直し

医事業務や滅菌業務、病院情報システム運用業務などの委託について、毎月、委託業者との定例会を開催し、業務の実施状況を把握している。また、施設維持管理・防災業務や診療材料の管理及び物品搬送業務の委託などでは、日々の状況確認を行った。医療機器の保守点検業務委託では、対象機器の見直しを行い、経費削減に努めた。

【委託料の状況】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委託料	1,652,175 千円	1,724,419 千円	1,735,806 千円	1,738,255 千円	1,797,957 千円
対医業収益比率	10.5%	10.4%	10.1%	11.1%	10.6%

6 病院広報の充実

広報春日井に当院の医療への取組み等に関する記事を掲載するとともに、当院の診療内容や取組等を掲載した地域住民向けの病院新聞「さくら」や、地域の医療機関向けの病院情報誌「Trinity（トリニティ）」を各年3回発行した。

また、令和4年6月開設の新棟の動画を作成し、JR春日井駅、高蔵寺駅のデジタルサイネージに掲載し、PRに努めた。

7 ICT等を活用した業務の効率化

令和3年4月から自動精算機の運用を開始するとともに、令和3年10月からオンライン資格確認の運用を開始し、マイナンバーカードを保険証として利用できるようになった。

第5節 令和3年度各所属の主な取組項目の実施状況

分類	事業名	取組概要	
1 地域で果たす医療機能の充実	(2) 高度専門医療の提供	<p>「肌トレ外来」の名称を改め、「アトピー性皮膚炎専門外来」として準備している。治療に用いるビタミンAを含む化粧品調達の係る事前調整を完了した。</p> <p>新棟内視鏡センターの業務開始に合わせて内視鏡検査機器の洗浄員を1名増員する予定になっており、以後内視鏡検査機器の一次洗浄は看護師から洗浄員に業務を委譲する。検査室と洗浄区域が完全に独立し確実な感染コントロールが可能となるとともに、看護師の業務負担が軽減され、医師も本来の診療業務に専念できるようになる。新棟開設後は、新棟内視鏡センターに専属の医師事務作業補助者の配置を進める。</p>	
	新棟内視鏡センター設立に係る準備		
	(3) 地域完結型医療の推進	地域緩和ケア連携の充実	地域へつないだ患者のフィードバックカンファレンス（デスクカンファレンス）を行った。これにより院内の医療者が、患者の退院後の療養状況を知ることができた。地域のがん患者の支援者の困りごとを共有することで、より患者の希望に沿った在宅療養支援を実施できるようになった。また、カンファレンスを通じて顔の見える関係を構築することができた。
		がん患者の退院調整	入院中に緩和ケアチームが介入した233名の患者のうち、自宅退院を希望された患者は76名だった。そのうち入院中に死亡した患者が4名、自宅退院できた患者が72名だった。その8割以上の患者が終末期で在宅医療を必要としていた。緩和ケアセンター内の退院調整看護師が介入し、地域支援者と連携して自宅で安心して療養できるように面談を行うが、コロナ禍で面会が全面禁止となり、退院調整に関わる面談はオンラインが主流となった。介入患者の平均在院日数は22日で、退院調整介入日数は約9日だった。昨年度に比べ、退院調整介入日数は1日、平均在院日数は3日の短縮になった。
		がん地域連携パス患者の支援の充実	外科での胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がんと消化器内科での胃がん、大腸がんに対する地域連携パスは、ほぼ例年と同様の174件の運用開始数であった。年間通しての運用数は例年と同水準の1080件であった。パスを中止した患者を追跡し連携医以外の在宅診療へ16件つなぐことができた。在宅診療を行っている地域の医療機関は少なく、人生の最終段階まで継続して患者支援を行うため、医療連携室を始めとする院内各部門との連携を強化する。
	2 市民の立場に立った医療サービスの提供	(1) 安全・安心な医療の提供	転倒予防と日常生活の拡大を目的とした病室の患者用椅子の買替え
インシデントシステムの改変			既存システムの入力項目を当院に対応した形で更新した。「インシデント・アクシデントレポート」、「転倒・転落報告書」、「暴言・暴力報告書」、「苦情・ご意見報告書」、「転倒・転落報告書（外来・小児科）」を作成。年間3,400件程度のインシデントが報告されるが、レポート内容に曖昧な点が多く、正確な情報を得るために報告者に確認を行っている。新システムは5W1Hを明確に記載できることから報告者に確認する負担は軽減される。分析は、時系列事象関連図を作成した後に根本原因分析（RCA）ができるようになったため、広い視野で具体的な対策をたてることができる。インシデント件数を病院安全推進室の日報に反映できるようにしたため、日々のインシデント発生状況が速やかに把握できるようになった。
臨床検査の品質向上とISO15189取得による収益向上事業			令和3年4月からISO15189認証取得のためのコンサルティング契約を結び、令和4年3月末までに取得のための職員教育、文書作成指導と確認、内部監査の指導と立会い、マネジメントレビュー会議の指導と立会い、申請書類作成指導で合計17回（約105時間）の指導を受けた。職員も指導いただいた内容を理解し、ISO15189規格要求事項に沿った検査室運営と検査業務手順書の見直しを行い、準備を進めている状況。令和4年3月末時点で審査申請種類を提出した。一次審査は、令和4年6月、二次審査は、令和4年9月。認定書の交付は、令和4年12月を予定している。

分類	事業名	取組概要
2 市民の立場に立った医療サービスの提供	(1) 安全・安心な医療の提供 NAFLD/NASH拾い上げプロジェクト	<p>NAFLD/NASH拾い上げプロジェクトの意義や具体的方法（フローチャート）などについて、講演会、勉強会、広報春日井で院内外の医療従事者、市民に向け周知・広報活動を行った。</p> <p>肝炎医療コーディネーター養成講習会に消化器内科担当の医師事務作業補助者3名が参加し、コーディネーターの資格を取得した。肝硬度測定器を用いた肝臓評価は令和3年度実績で約500件。そのうち肝生検を行った件数は10件であった。肝臓専門医が2人から4人に増え、医師事務作業補助者の肝炎医療コーディネーター資格取得により、肝臓疾患の病態を把握した上で、保険制度など事務的な手続きの説明などができるようになり、患者の理解や収益向上につながっている。</p>
	リハ総合実施計画評価料の算定	<p>マニュアルの作成や職員研修会を開催し、チェック体制が確立されたことで、総算定件数は、令和2年度の869件から2,293件に大きく増加した。本人署名困難事例が毎月80～100件程度確認されていることから、面談や同意・説明時など患者家族が来訪する機会に積極的にアプローチを行うとともに、病棟スタッフ及び医療連携室との更なる連携強化を図り、算定件数の増加を目指す。</p>
	院内デイケア	<p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し午前11時から正午までの1時間、病棟5階デイルームで28回開催した。延べ参加者数は142名、1回の平均参加者は6名、平均年齢は85.25歳、参加者の入院主疾患は、多い順で脳梗塞26%、心不全21.8%、硬膜下血腫9.8%、誤嚥性肺炎6.3%、脱水症4.9%であった。参加者の94%に院内デイケア中の活動耐性の改善があり、院内デイケア後は参加者の75%がよく眠れるようになり、夜間睡眠評価が改善した。このことから、院内デイケアは患者の睡眠と覚醒の日内リズムの維持や改善につながっており、せん妄やBPSD（認知症に伴う行動・心理症状）の予防、遷延・悪化予防ケアとして有効である。患者が安全に安心して療養生活を送ることができる。</p>
	患者と家族のオンライン面会	<p>令和3年3月からオンライン面会を開始した。当初は当院に家族に来院いただき、オンライン面会できる部屋を確保し実施していたが、遠隔で（家族が自宅等から面会）参加できるよう整備した。令和3年度は784件実施した。オンライン面会用に各病棟にタブレット端末を購入し活用している。</p> <p>オンライン面会実施後の家族に対して令和3年9月から10月に実施した患者アンケート結果では、「大変満足」と答えた方が48%、「まあまあ満足」と答えた方が48%と9割強の方が満足と感じていた。「面会できない中で患者の様子が分かり安心した」「顔が見られてよかった」などの声が聞かれ、不安の軽減につながっている。また、リハビリ中の動画を撮影し、療養先の意思決定支援の際にも活用している。</p>
	分娩目的の入院患者さんの環境改善	<p>分娩患者の入院において、通常入院日数の範囲で室料差額を課すことなく個室を提供した。産後の食事に関しては特別な指示がない限り産褥食3回分を祝い膳に変更した。祝い膳は従前のような2種類からの選択式ではなく、7種類の曜日固定制で選択肢を増やした。患者満足度の向上を図り、当院での出産数の増加に努める。</p>
	感染対策に関する組織体系の見直し	<p>令和4年4月から病院安全室から感染担当が感染対策室として独立した。院外関係者にも分かりやすい組織体系となった。また、感染に関する情報伝達経路の整備のため、全部門にリンクスタッフを配置し、感染予防対策部会として活動する。</p> <p>感染予防対策部会の活動については、毎月医療関連感染予防対策委員会に報告した。部会で伝達したマニュアルの周知状況は、毎月各部署をラウンドし確認することで、指導を行った。手指衛生は、手指消毒剤使用量の測定と併せて必要なタイミングで実施できているか直接観察・指導を行った。これらを病院全体で行うことで、感染対策の強化につながっている。今後も適切な感染対策が実施できるよう、活動を継続する。</p>
	細菌検査室の拡張及び感染症遺伝子検査の拡充	<p>令和2年8月から洗浄室を改装、新型コロナウイルス抗原定量検査機の移設、核酸遺伝子計測器、安全キャビネット、超低温冷凍庫、バイオハザード対策付き遠心機、試薬保管冷蔵庫を購入。令和3年11月から細菌遺伝子検査室として稼動を開始。新型コロナウイルス、結核菌などの核酸遺伝子検出検査（PCR）及び新型コロナウイルス抗原定量検査を行っている。引き続き、核酸同定（PCR）4項目及び新型コロナウイルス抗原定量検査に対応しつつ、今後、非定型抗酸菌核酸同定、淋菌クラミジア核酸同定など、細菌遺伝子検査の拡充を予定している。</p>

分類	事業名	取組概要
3 健全な経営の確保	新規採用看護師向けリクルート活動の充実	SNSで、部署の取組みを2か月に1回発信した。令和3年度は、インターンシップに14名の参加があった。新型コロナウイルス感染症の増加に伴い、病院見学やインターンシップを中断することもあったが参加者数は前年度並みとなった。病院見学、インターンシップの代替としてWeb見学会を開催し30名が参加した。他に夏期と春期の2回、集合インターンシップをオンラインで開催し、それぞれ50名と40名の参加があった。実施後のアンケートでは、当院に対して良好なイメージを受けたという意見が多くあった。看護実習は全5校、認定看護師養成のための実習を1件受け入れた。病院見学やインターンシップの機会が減少する中、当院への入職希望者を増加するため、オンライン見学会や病院説明会の内容をより興味関心を高められるように努める。
	病院機能を維持し、効率的な病院経営を推進していくための人材育成	認定看護管理者教育課程は予定どおり進めることができた。(ファーストレベル4名、セカンドレベル2名、サードレベル1名) 認定看護管理者試験は1名合格し、認定看護管理者を1名増員できた。今後も計画的に育成を進める。特定行為研修は、養成機関での研修修了後に院内研修を積み重ね、12月に院長から認定を受けることができた。(創傷管理関連1名、症状緩和関連1名) また、令和4年度は新たにクリティカルケア分野の特定行為研修に1名の看護師が参加する。特定行為研修修了看護師が、医師の負担軽減及び医療看護の質向上に寄与できるように院内の体制整備に取り組み、支援を継続する。看護管理者として組織目標を達成するための取組みを推進できるよう、引き続き看護管理者の育成に努める。
	看護師向け研修としてオンデマンド研修の活用	令和3年度に実施したクリニカルラダー研修は、総数77、うち対面による研修21、JNAオンデマンド利用研修8、ナースィングスキル利用12、院内講師による動画研修29、選択研修7、総参加者数は1,432名(うちオンデマンド研修参加者数653名)であった。ラダーレベル別の参加者数は、ラダーレベルⅠでは555名、ラダーレベルⅡでは514名、ラダーレベルⅢでは248名、ラダーレベルⅣでは102名、ラダーレベルⅤでは13名となった。
	初期臨床研修医マッチング	レジナビは新型コロナ感染拡大のためすべて中止となったため、オンライン見学を実施。研修医向け病院パンフレットを改定した。ノベルティはポケットサイズの手指消毒薬を準備したが、レジナビが中止となったため、見学者に渡し、好評であった。オンライン見学など随時病院ホームページのトップ画面に表示されるようにしてPRに努めた。
	JMECC講習会・ICLS講習会の開催	JMECCを滞りなく開催した。老朽化したシミュレーターの更新、AEDトレーナー、リトルアンなどの不足分等も購入し、JMECC、ICLSを院内の機材だけで開催できるようになった。機材が整備されたことにより、令和3年度のICLSの開催は年に6回であったが、令和4年度は12回開催する予定である。
	初期臨床研修プログラム責任者及び初期臨床研修指導医の育成	初期臨床研修プログラム責任者研修を1名が受講した。指導医2名が受講し、初期臨床研修プログラム責任者計4名を維持している。臨床研修指導医は令和4年4月時点で52名となっている。
	医師の負担軽減	令和3年度は4名の医師事務作業補助者を採用し、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科へ各1名増員できた。増員により、医師事務作業補助体制加算1の施設基準が令和3年6月から40:1が30:1に、さらに令和3年9月から25:1になり、診療報酬の増加につながった。各外来へも医師事務作業補助者の配置を進め、医師の負担軽減を図った。

分類	事業名	取組概要
3 健全な経営の確保	(2) 効率的な病院経営の推進 医療経営セミナー研修会参加と学会発表	<p>全国自治体病院協議会「DPC制度初心者向けオンラインセミナー」、愛知県立大学看護実践セミナー「病院で看護にできる収益アップの実際」セミナー、第21回日本クリニカルパス学会学術集会、日本病院会病院中堅職員育成研修、医療の質向上のための体制整備事業室改善事例の提供などを通じて所属職員の知見を深め、情報を経営に生かす取組みを行った。病院向上ワーキングを9月から始動し、次のとおり取り組んだ。摂食機能療法への多職種間の連携による加算算定増加と患者支援の充実、院内ディケア開催の工夫、肺血栓塞栓症予防管理料算定漏れへの改善とテンプレート修正など。</p> <p>令和4年度から院内向上推進委員会として始動し、組織の課題抽出と改善提案に取り組む。</p>
	放射線機器保守契約の見直し	<p>医療機器の保守業務委託契約の見直しを行い、救急撮影室のCT装置と総合保健センター内のMR装置分を削減できた。新しい装置の導入時に、これらの保守契約時に減額できることが可能であれば積極的に行っていく。</p>
	オンライン資格確認	<p>オンライン資格確認の導入により、患者の保険証の有効性の確認や、限度額の情報が閲覧できるようになるとともに、マイナンバーカードの保険証利用も可能となった。限度額の情報が患者の同意がある場合に閲覧可能となったことから、限度額認定証を持参しない患者へも限度額を適用できるようになったため、患者の負担が減少した。また、限度額の情報を確実に取得することにより未収金発生リスクが減少し、医療費を還付する機会も減少するため、事務負担の軽減につながった。今後は予約患者に係る無効な保険情報を事前把握し、患者への声掛けを積極的に行い、保険資格不一致による返戻事例減少に努める。</p>

第6節 中期経営計画体系別実施結果一覧

取組方針	基本的取組	具体的取組	令和元年度の実施結果	令和2年度の実施結果	令和3年度の実施結果
1 地域で 果たす 医療機能 の 充実	(1) 救急医療の充実	01 高度で専門的な医療提供体制の確保	○	○	○
		02 小児・周産期救急医療提供体制の確保	△	△	△
		03 休日・平日夜間急病診療所との連携	○	○	○
		04 救急医療の適正受診の啓発	○	○	○
		05 消防機関との連携	○	○	○
		【実施済の取組】救命救急センターの設置	—	—	—
	(2) 高度専門医療の提供	【重点取組】緩和ケア病床の設置	—	—	—
		【重点取組】心臓病センターの設置	△	△	△
		【重点取組】ハイブリッド手術室及び手術支援ロボット対応手術室の設置	—	—	○
		【重点取組】アレルギーセンターの設置	—	—	○
		【重点取組】新棟の増築等	—	—	○
		【重点取組】がん治療の充実	—	—	○
		01 脳卒中センターの強化	◎	◎	◎
		02 高度医療機器の計画的な更新・導入	◎	◎	◎
		【実施済の取組】放射線治療の充実	—	—	—
		【実施済の取組】脳卒中センターの強化	—	—	—
		【実施済の取組】高度医療機器の計画的な更新・導入	—	—	—
	(3) 地域完結型医療の推進	01 地域医療連携の推進	○	○	○
		02 退院支援の充実	○	○	○
		03 地域連携パスの推進	○	○	○
		04 地域包括ケアシステムの構築支援	○	○	○
		05 健康づくり事業等との協働の推進	○	○	○
		06 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化	○	○	○
		07 病床機能の検討	△	△	△
		【実施済の取組】ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化	—	—	—

取組方針	基本的取組	具体的取組	令和元年度 の実施結果	令和2年度 の実施結果	令和3年度 の実施結果
2 市民の 立場に 立った 医療サ ービス の提供	(1)安全・安心な医 療の提供	【重点取組】医療の質の向上	○	○	○
		【重点取組】感染症対策の徹底と検査体制の充実	—	—	○
		【重点取組】感染症流行下における継続した医療の提供	—	—	○
		02 医療安全意識の向上	○	○	○
		03 医療相談の充実	○	○	○
		04 チーム医療の推進	○	○	○
		05 接遇の向上	○	○	○
		06 薬薬連携の推進	○	○	○
		07 病院機能評価の受審	—	—	◎
	08 ISO15189の認証取得	—	—	△	
	(2)災害時医療の充 実	01 災害拠点病院の機能の拡充	○	○	○
		02 災害派遣医療チーム（DMAT）の機能の向上	○	○	○
		03 災害時にかかる計画などの見直し	△	△	△
		【実施済の取組】02 災害派遣医療チーム（DMAT）の拡充	—	—	—
3 健全な 経営の 確保	(1)医療スタッフの確保・育成	【重点取組】研修体制の充実	○	○	○
		01 医療スタッフの確保	○	○	○
		02 医療スタッフの質の向上	○	○	○
		03 勤務環境の改善	○	○	○
		【実施済の取組】研修体制の充実	—	—	—
		【実施済の取組】勤務環境の改善	—	—	—
	(2)効率的な病院経営の推進	01 経営意識の向上	○	○	○
		02 職員からの業務改善提案	○	○	○
		03 未収金対策	○	○	○
		04 経費の削減	○	○	○
		05 委託契約の見直し	○	○	○
		06 病院広報の充実	○	○	○
		07 ICT等を活用した業務の効率化	—	—	○
		【実施済の取組】病院広報の充実	—	—	—

[実施結果] ◎：実施済 ○：実施 △：実施に向けて検討・継続中